

近年の情報化の進展は予想もつかないほどのものがあります。中学生を取り巻く状況も例外ではありません。世の中に氾濫する情報の渦の中で、知らぬ間に罠にかかって被害を



パソコン教室はじまる



こうむるといふニュースが多くなっています。有益な情報を選択し活用する能力は情報社会を生きる上で最も必要な能力となっています。そこで、今年度から中学生を対象にパソコン教室を実施することとし、5月19日に10名の中学生の参加のもと第1回の教室が開講されました。終始熱心な受講態度で、今後の成長が大いに楽しみです。

当館では今年度リースしたノートパソコン10台を用意して、館だより『ゆめじゅく』5月号で受講生を募集していたパソコン教室を開くこととなった。



6月6日(水)の午前、図書室を会場にして10名が参加。開口一番「私は松嶋菜々子です。」

とやや古いギャグで講師の小野志保先生のユーモアあふれる第一声でスタートした。

パソコンで作ったいろいろな模様やデザインの作品をパネルで皆さんに見せながら、「このようなものを作ることができます。」と学習の目標を具体例で示すと、思わずその場で小さな拍手が湧いた。

先生は文章や図のところどころに空欄がある手作りのテキストを用意されていた。そこには、先生の話聞きながらその内容を埋めていき、テキストとして自分で完成させる趣向のようだ。もちろんノートする時間の節約も兼ねている。そして、先生は「途中でわからない時は隣の人には聞かないこと。そんな時は、私に聞いて」という。それは講座が続いている最中だから「あなたもお隣も、2人ともわからなくなるから」だとか。その通りですよ。また、「予習はしなくても復習はしてほしい。5分でも10分でも、パソコンにさわってほしい。」とも話された。

初心者にはよくわかる、とても楽しい話が続いた。



7月公演 回轉木馬おはなし会

7月4日予定 10:40~11:00 瀬戸児童館



平成24年5月25日(金)愛隣連の女性部総会・研修会が松山市：愛媛県総合社会福祉会館で開かれた。

研修会の講演は、当館の香出只三郎指導員。『人権状況は今』と題して、過去から現在への遺産相続の話、アメリカの黒人差別、部落差別との比較など、知っているようで知らない差別の実態を具体的にいろいろな視点から見て、考え、学ぶことができた研修会の講演でした。

気付くこと、そこからはじまる人権意識・・・

7月の主な行事予定

7月11・25日(水) — 移動図書館

7月11日(水) — 人権のつどい日

DVD「探梅 春、遠からじ」の視聴・話し会

月2回(木) — 絵本・紙芝居 お話し会

泉川小学校放課後児童クラブ

瀬戸会館だより
平成24年7月号
新居浜市瀬戸会館
〒792-0821
新居浜市瀬戸町7-30
E-mail
seto@city.niihama.
ehime.jp
TEL 0897
41-5859
(FAX 兼用)

川へはひとりで行きません



暑い季節が到来する前に、「水の事故防止教室」が6月7日(木)新居浜市の高柳公園で実施された。警察署のお巡りさんと新居浜地区防犯協会の古川宏明さんらたくさんの方が見守るなか、泉川小学校の一年生、泉川保育園のきりん組さん、ぞう組さんが参加した。

警察の生活安全課のお姉さんから、児童たちは『お約束』をお願いされた。そのひとつが「ひとりでは池や川へ行きません」ということだった。「守れますか〜?」の問いに「ハア〜イ!」と一斉に答える児童たち。

このあと、警察官扮する少年が網で魚をすくおうとして川の中に転落、パトカーが駆けつけて助けられる場面を実際に見る。そして「川に落ちた人を見たらどうしますか?」との問いに児童たちは「助けてあげる!」と大声で答える。「そうですね。でも、まず大人の人を呼んであげてね、助けてー!」。「でもね、助けてー!は遊びで言うてはいけません」と念を押す。みなさん、『ホタルの里』でもあるここでの勉強、ごくろうさんでした。

第5回「であい展」

8月12日(日)~16日(木) 開催

作品募集 瀬戸会館までお知らせください

瀬戸・寿夏まつり 16日(木) 19:00~

人権あらかると

誰が何を「発見した」というのか？

萱野 私は10年ほど前にオーストラリアに行ったんですが、その時にある場所で三メートル四方ぐらいの大きさのコンクリートの基礎の一部が保存されている所に案内されたんです。この基礎の上には、「人跡未踏のこの場所に来て、我々がこの地を開拓した」という白人の言葉を刻んだ石碑が建っていたようですが、白人自らがその石碑をアボリジニの皆さんにお詫びしながら壊したんだそうです。その基礎だったんですね。それがとても印象的でした。

それで、北海道に帰ってきてすぐに、その時北海道新聞のコラムを担当していたので、「北海道には212の市町村があるが、その村史や市史に常套句として『人跡未踏の北の大地に開拓の鋤を下ろして幾星霜』という言葉が石に刻んであると書かれている。いつの日か、日本人が、『アイヌのみなさん、ごめんなさい』と言って、その石碑を壊す日が来るように」と書いたんです。

ワジュラビーナ まさに同じことがオーストラリアでも起こりました。キャプテン・クックがオーストラリア大陸を「発見した」—「発見した」というのは彼の言葉ですが—その時に、彼はオーストラリア大陸は誰も住んでいない無主地だと言い、英国国旗を立て、土地を英国のものにしたんです。これは白人から見たアボリジニの歴史です。

『世界』(岩波書店、2001年3月号)より

かやの しいろ にぶたに
萱野 茂 二風谷アイヌ資料館々長、元参議院議員、国会で初めてアイヌ語で演説する

ワジュラビーナ オーストラリアの先住民族アボリジニ

なれない手つきで

5月30日(水)の放課後、瀬戸児童館では「たけのこクラブ」(1年～3年生)の16人が畑の前で待っていた。

みんなは手袋をして、手には小さなシャベルを持ち、首にタオルを巻いた本格派の姿もある。児童館には、三本の畝からなる小さな畑が二つあり、どんよりと曇ったこの日は、サツマイモの苗を植え付けることになっていた。

二班に分かれた皆さんは、それぞれ井原先生と近藤先生の指導で作業開始。苗のうち土に埋める茎の長さやその深さに戸惑いながら、話し声もほとんど聞こえず作業は進む。

大変だったのは水やり。児童にとって、両手で持ってもジョウロは大きすぎるし、重たいからだ。「まだ水やりやってない人～！」と先生の声。「は～い！」と何人かが手を挙げて、順次みんなが体験していく。週一回の活動をする「たけのこクラブ」なので、翌日は別のクラブが水やりのバトンを受け継いでいく。



秋の収穫までは、まだまだ遠いが、毎日の成長を確かめるのがまた、楽しい。

「人権のつどい日」にひろう



6月11日(月)はDVD『あの空の向こうに』を視聴したあと、参加者がそれぞれ意見を出し合った。テーマは「ケータイ・ネット社会と人権」で現代社会を反映したものと言えよう。

ストーリーは主人公の女子高生福永明日香が、遊び心でブログに友人のスクープ写真と文章を載せたことに端を発するトラブルを軸に話が展開する。面白いと軽く考えた行為が、実は人権侵害そのものだったわけで、ドラマもこの日の話し合いも、ケータイやインターネットについて改めて考える場となった。

そして「だれもが被害者になるし、加害者にもなりうる」「不特定多数と一度につながってしまう怖さ」などを語るほかに「フィルタリングすることが義務になっているのに、日本は遅れている」とか『盗撮して流した』ことがどれだけいけないことかに対して、このドラマの姿勢は甘い!との指摘もあった。

会場にたくさんの人



新居浜のマイントピア別子で押し花四季彩作品展が開かれていて、6月初めたくさんの人でにぎわう会場におじゃましました。指導者の鴻上勝子さんやみなさんからは、瀬戸会館の夏の行事『であい展』に毎年素晴らしい作品を展示していただき、訪れる人に喜んでいただいている。

会場には大小あわせて50点を超える作品が並び、宮崎和子さんをはじめ当館でのレインボー体操教室で活動する人たちの作品もある。そして、例えば「壺」という作品の場合、アジサイの花、たけのこの皮、キャベツ、苺のランナーなどと材料のメモ書きがそえられていて、改めて作品を見直し、押し花の出来栄に驚く。

実習コーナーには子供たちの姿も見られ、椅子に腰をおろして材料を慎重にえらぶ。そばにいる担当者に熱心に尋ねながら作品づくりが進んでいる。その隣の席では親御さんの手も動いていた。